

# 1 号議案

## 首都圏土壤医の会 令和元年度事業報告

自 平成31年4月 1日

至 令和 2年3月31日

### (事業活動総括)

令和元年度は、COVID-19等の影響もあり、現地研修会を含めて昨年度に比べ研鑽の機会を増やすことが出来ませんでした。しかしながら、土壤医の会全国交流大会において首都圏土壤医の会が優良土づくり推進活動表彰を受けました。これは、私たちの活動が、全国の地域土壤医の会の中で独自の活動など活発に活動していると評価されたものと考えます。

研究部会4部会の活動は、部会事務局の多忙からその活動は部会ごとにまちまちでした。

令和元年度も検定試験対策講習会を実施することが出来ました。受講者は埼玉県を中心に東京都からの参加もあり、3級13名、2級9名の受講がありました。また、埼玉県鴻巣市で土壤医検定試験準会場設置し、オープン会場となったこともあり計83名の受験がありました。

メーリングリストの活用による会員間の情報交換は一定程度進みましたが、ホームページを活用した発信は十分出来ず、首都圏土壤医の会を対外的に周知することが出来ませんでした。

首都圏土壤医の会の交流会として、総会の後に懇親会を行いました。また、研究部会でも、現場での調査時に一般の方々との交流が出来ました。

土壤医の会の体制を含め首都圏土壤医の会の今後のあり方について、具体的な案の作成に至りませんでした。

全国協議会の支援制度の活用は出来ませんでした。

### 1. 第3回定期総会の開催

令和元年6月14日に「第3回定期総会」を日比谷図書文化館において開催しました。総会では、事業計画(案)、予算計画(案)が討議され、承認されました。

### 2. 第3回定期総会研修会の開催

第3回定期総会の後、研修会を以下の通り開催しました。(41名参加 内非会員23名)

- (1) 日時 令和元年6月14日 午後2時～4時40分
- (2) 会場 日比谷図書文化館
- (3) 内容

- ① 基調講演「腐植ならびに腐植物質を活かす土づくり」  
東京農業大学 農芸化学科 土壤肥料研究室 加藤 拓 先生
- ② 土壤医活動事例発表 「水稻、ナスの収量・品質低下等に対する土壤診断による改善の取組み《付：葉菜類の育苗改善》」  
首都圏土壤医の会 副会長 谷田貝 敦

### 3. 現地研修会の開催

年度内に2回の研修会を計画し各々準備いたしました。実施については次の通り「計画①」の1回のみとなりました。

計画①：ペドロジー的視点からの研修（土壤図活用研究部会との共催）

（29名参加 内非会員14名、非会員のうち資格登録者12名）

- (1) 日時 令和2年2月7日 午後1時～4時15分
- (2) 会場 埼玉県立・川の博物館
- (3) 講師 埼玉県立・川の博物館 森 圭子先生（農学博士）
- (4) 内容 土壤モノリスを活用した日本の主要土壤に関する学習をメインに、土壤図の解説や一部（埼玉県の）耕地土壤と作物の関係、土性に係る体験実習

計画②：作物栽培に密接な研修（毎年恒例）：今回は神奈川（水田跡地）予定でしたが、外部講師の都合が急きょ悪くなり、場所と日程を改めR2年3月へ延期しましたが、

さらに、COVID-19の影響により年度内の実施ができなくなりました。

### 4. 土壤医検定試験対策講習会（首都圏土壤医の会、鴻巣土壤研究会共催）

個別事業として令和元年度の実施が可能か検討しましたが、講師等人件費や受講者の参加費、講師や会場の確保、運営方法など検討事項が多岐にわたり、現段階では時期尚早だと判断し、令和元年度は個別事業として行わず、昨年度と同様に土壤医検定試験対策講習会研究部会が中心となって実施しました。参加者（2級9名、3級13名参加）

- (1) 日時 令和元年11月23日～令和2年2月1日の間  
2級対策6回 3級対策6回 それぞれ2時間程度
- (2) 会場 埼玉県鴻巣市市民活動センター
- (3) 研修内容 土壤協会テキスト解説および模擬問題による演習

## 5. 研究部会活動

### (1) 市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会（現部員10名）

小規模圃場の土壌調査を中心に6回の研究部会を開催しました。これらの調査報告を年度内にまとめる予定でしたが、COVID-19の影響により報告書作成のための会議が開けず、また、「市民農園等小規模圃場の土作りマニュアル」の作成にも踏み込めませんでした。

- 【第1回】2019年4月28日 東京都内 貸会議室 部会員10名出席  
内容：簡易土壌分析演習  
個人活動報告 報告者 研究部会 渡部恵氏 藤森利雄氏  
研究部会の今後の進め方について検討
- 【第2回】2019年9月14日 埼玉県川越市 家庭菜園圃場 部会員4名参加  
内容：家庭菜園圃場の土壌分析調査
- 【第3回】2019年10月26日 東京都内 貸会議室 部会員5名出席  
内容：土壌調査結果検討
- 【第4回】2019年12月1日 埼玉県川口市 福祉農園 部会員5名参加  
内容：福祉農園の土壌分析調査
- 【第5回】2020年1月17日 埼玉県吉見町 ガーデン圃場 部会員4名参加  
内容：ガーデン圃場の土壌分析調査
- 【第6回】2020年2月2日 埼玉県北本市 ガーデン圃場 部会員6名参加  
内容：ガーデン圃場の土壌分析調査

### (2) 土壌図活用研究部会 （当初部員6名で発足→【退職等】現部員4名）

「実地における土壌図の活用」に関して、当初想定の新知見や意義の大きな応用事例を得ることができず、R1年度に当部会独自の研修会を実施することはできませんでした。（但し、R1年度の現地研修会「埼玉県立・川の博物館にて実施」は、当部会との共催）

土壌診断等を行いながら作物生産を継続している圃場においても土壌図は参考程度にはなるものの、例えば「作物品質・収量の向上」に対し画期的な情報を現状の各土壌図から得ることは難しいことも分かり、また、当会（首都圏土壌医の会も含め）においては、土壌図情報が特に有効と思われる「農地の取得」「新規就農」「新規作付け品目の検討または作物変更の検討」に十分に対応できる陣容を擁しておらず、研究部会としては一旦休止することとします。

### **(3) 簡易土壌分析研究部会 (当初部員8名で発足)**

研究部会としての身近なテーマをつのるということで、あらためてアンケートを実施することは出来ませんでした。また、土壌検査機器メーカーとの交流という点ではハンナインストルメンツ・ジャパン株式会社様と連絡がとれ無料講習会の開催についての相談まで行っておりましたがこちらも実施に至りませんでした。本会は一旦休止とし、無料講習会などは別途首都圏土壌医の会として単独での開催を行うことを検討したいと考えます。

### **(4) 土壌医検定試験対策講習会研究部会**

研究部会は新たな講師希望者が現れるまで休止としていましたが、受験予定者から講習会を行って欲しいとの要望があったため、試験対策研究部会を再開し、個別事業としてではなく試験対策講習会研究部会の活動として昨年と同じ鴻巣市で講習会を開催しました。

講習会の参加者の募集は、本会のホームページで行ったほか、本会員の協力も得て、地元市役所、農協、市場、専門学校、農業高校、農業大学校、農業資材店等に対し募集案内を配布しました。

参加者は2級・3級合わせて22名ありました。募集案内をホームページに載せたことで遠方からの参加者もありました。なお、募集に合わせて準会場設置の案内も行いました。

講習会は、11/23(土)、12/7(土)、12/21(土)、1/4(土)、1/18(土)、2/1(土)の6回、2週間おきに3級が午後5時30分より7時20分まで、2級が7時30分より9時20分まで行いました。

## **6. 技術懇話会**

当初想定した「当会内で土づくり関連情報を複数得て、担当理事等が現地へ赴き検討、その成果を会員間で共有する」ことができず、抜本的な見直しが必要となりました。

さらに、今後、収集する情報の範囲(対象)や内容、収集方法、情報の検証方法、効果的な共有方法等につき検討を進める必要があり、2020年度は「検討する」段階への格下げとします。

## **7. 「農」の機能発揮アドバイザー派遣事業への参加**

定期総会にて概要の説明を行った後、10月にメーリングリストにて当会メンバーへの制度利用に関する連絡とホームページでの公開を行いました。残念ながら問い合わせや制度利用の申込の連絡はございませんでした。

## 8. 令和元年度土壤医検定試験準会場設置

埼玉県以外の準会場の設置は、体制の面からできませんでした。令和元年度は、昨年度と同じ埼玉県鴻巣市のみで設置しました。昨年度の鴻巣市での準会場は、初年度のため受験範囲が限定され受験者が26名に留まりましたが、令和元年度は、一般の方が誰でも受験できるオープン会場となり、2級41名、3級42名 合計83名の受験がありました。

## 9. その他

### (1) 行政等が行う研修会等の開催情報の提供

会員からの情報提供もあり、十分ではありませんが一定程度情報が提供できました。

### (2) ホームページを活用した、首都圏土壤医の会の活動の発信

現地研修会の内容等、十分な首都圏土壤医の会の活動を発信が出来ませんでした。一方試行的に開設した facebook ページに対して当会会員数を超える約80名からのフォローを受けておりこの媒体の有効活用の検討が必要と思われます。

### (3) 理事会などのオンライン会議採用の検討

検討が進みませんでした。

## 10. 総会・理事会に関する事項

開催日	種類	会議事項
2019年4月10日	第16回理事会	定期総会に向けての活動計画、方針
2019年4月28日	第17回理事会	定期総会に向けての活動計画、方針
2019年5月26日	第18回理事会	定期総会、研修会の内容検討
2019年6月14日	第3回定期総会	第3回定期総会、記念研修会
2019年6月14日	第19回理事会	役員信任
2019年8月29日	第20回理事会	定期総会総括、現地研修会計画、研究部会進捗確認
2019年9月19日	第21回理事会	令和2年定期総会の進め方検討、研究部会進捗確認、土壤医試験準会場への対応について
2020年2月16日	第22回理事会	令和2年定期総会の議案内容検討、土壤医試験準会場運営委託費の扱いについて

## 2号議案

### 令和元年度首都圏土壤医の会 会計収支実績

#### 1. 平成31、令和元年度の予算計画時と実績の差異について

当該年度については平成30年度の活動実績と事業計画を鑑み以下の方針で予算を編成した。なお業計画遂行後に余剰が生じた場合は、本会収入に繰り入れることとした。

##### (1) 収入

- ①活動費 2019年5月31日時点の会員40名を基本に年度2000円/名としたが、年度途中入会者4名を迎えることができたため対予算9,600円の収入増であった。
- ②研修会等参加費 2回の現地研修会での参加費を前提に予算化したが実際には1回の開催にとどまった、しかし定期総会研修会に想定以上の非会員参加者を得ることができ対予算32,000円の収入増であった。

##### (2) 事業計画項目ごとの費用の考え方の予算・実績

- ①第3回定期総会 活動費により対応した。
- ②第3回定期総会研修会 参加費の範囲内で対応できた。
- ③土づくり現地研修会 参加費の範囲内で対応できた。(会員からも1000円の参加費徴収、事務経費は発生せず、講師謝礼のみが発生した。)
- ④土壤医検定対策講習会 研究部会内で対応し本会からの出費はなかった。
- ⑤各研究部会の活動経費に関しては各々の研究部会内で支弁した。
- ⑥土壤医試験準会場設置を行ったが予算策定時は設置事業として収支が赤字にならないようにするという方針で臨み本会としての補助については行わなかった。実績としては収支15,424円の余剰が出たため本会へ雑収入として収入扱いとした。

##### (3) 一般事務費 活動費の範囲内で対応することとしていたがその範囲内となった。

- ①印刷費 今年度は発生しなかった(定期総会資料は研修会資料として参加費から出費した)
- ②通信費 サーバーレンタル代のみ発生した。
- ③役員交通費 一人1回の理事会で1500円を想定、会議6回としたが全員が辞退した。
- ④会議費 予算の想定より安価な公共施設の会議室を使用したために実績として22,420円減額となった。

2. <実績>

収入		支出	
活動費	89,600	第3回定期総会	印刷費 4,100
研修参加費	87,000	第3回定期総会記念研修会	会場費(備品含む) 12,000
			講師謝礼(交通費) 10,000
			小計 26,100
		土づくり現地研修会	会場費 6,720
			消耗備品費 0
			講師謝礼(交通費) 10,000
			小計 16,720
		一般事務費	通信費 4,946
			会議費 4580
			役員交通費 0
			その他(振込手数料) 432
			小計 9,958
雑収入	15,426	懇親会	店舗支払 29,600
懇親会費	31,500		
収入合計	223,526	支出合計	82,378
対予算	88,526	対予算	-52,622

# 監査意見書

私監事は2019年4月1日から2020年3月31日までの  
首都圏土壤医の会の会計年度における会計状況を監査するため、必要  
と認めた手続きを実施すると共に会長から提出された会計報告の内  
容について検討した結果、この報告書は適正であると認めます。

首都圏土壤医の会

2020年 5月 31日

監事

山田 裕 臣





## 3号議案

### 首都圏土壤医の会 令和2年度事業計画（案）

自 令和 2年4月 1日

至 令和 3年3月31日

#### 1. 首都圏土壤医の会をめぐる現状と活動方針

##### (1) 首都圏土壤医の会を巡る状況

現在、COVID-19に対応するため、日本全体で「新しい生活様式」の定着がすすめられているところです。このため、土壤医の活動もこれに沿った形で進めて行く必要があります。

農水省は、今年度から3か年新規助成事業として「データ駆動型土づくり推進事業」を行います。これに（一財）日本土壤協会、関係地方公共団体、NTT データ、土壤医の会全国協議会等が参加する協議会が「補助金交付候補者」に選定され、現在、正式決定を得るための協議が行われています。この事業では、現地での事業実施は主に土壤医の会が担当することになっており、協議会から土壤医の会正会員に対して関係農家・関係機関の方への説明や、対象圃場での貫入式土壤硬度計による土壤物理性測定等で協力をお願いされているところです。首都圏土壤医の会では、この事業に対し、出来るだけ協力し、あわせて、この事業機会を会員の研鑽の場や会員拡大の場としても活用していきたいと考えております。

昨年度に土壤医の会全国協議会の地域土壤医の会の活動に対する支援制度が出来ましたが、活用することができませんでした。

首都圏土壤医の会の会員は、昨年度新規加入9名、退会4名があり、昨年度末には正会員**35名**、準会員8名となっております。今後、会の活動を活発にしていくためには、さらに会員の拡大を図っていく必要があります（土壤医試験の結果発表後4月以降の入会申し込みは7名います）。退会の理由は、退職、転勤でありましたが、首都圏土壤医の会の加入メリットが具体的に見えないことも理由の一つと考えられます。

検定試験対策講習会の実施および検定試験準会場の設置は、土壤医検定の認知度向上に有効であったと考えられますが、会員の新たな獲得に十分つなげられたとは言えない状況です。

##### (2) 活動方針

COVID-19の感染が収まらない中、「新しい生活様式」に基づいた土壤医の活動を行うため、①オンラインによる会議・研修会等、②会議室を利用した会議・研修会等、③屋外で行う研修会・土壤調査等に分けて活動に関するガイドラインを作成します。また、この活動を支えるため、首都圏土壤医の会のインフラとして、リモート会議のできる環境を整備します。

「データ駆動型土づくり推進事業」へ首都圏土壤医の会が協力することは、会員の研鑽、会員に対する活動の場の提供の意味で大変有効な手段と考えられます。一方、事務局や担当理事の負担の増加や、日常に仕事を持つ会員が多く協力できる範囲も限りがあるため、案件ごとに是々非々で対応していきます。

COVID-19の感染が収まらない中で、会員の研鑽機会や活躍の場を増やし会員のメリッ  
トを充実するために、オンライン会議・研修会の実施の検討や、屋外での活動が多い「データ  
駆動型土づくり推進事業」への取り組みを進めてまいります。また、研究部会の活動にオンラ  
イン会議の利用をすすめ、検定試験対策講習会についてはオンライン講習会の開催を検討しま  
す。準会場の設置については、土壤医検定試験実施の動向を見極めて検討していきます。

首都圏土壤医の会の活動を、資格登録者にネット等を活用して周知し、また、対外的にも首  
都圏土壤医の会の活動を紹介し、会の認知度を上げていく必要があります。しかしながら、現  
在の体制では限界があります。今年度は、土壤医の会の体制を含め首都圏土壤医の会の今後の  
あり方について検討していきたいと考えます。

首都圏土壤医の会の活動を行うにあたり、全国協議会の支援制度について、その効果を見極  
めつつ活用を検討します。

## 2. 会員の研鑽の場および活躍の場の提供

### (1) 室内研修会（これまでの総会研修会を含め第4回）の実施

【昨年度までは「総会研修会」として実施していました。】

- ① 日時 未定（COVID-19による影響を考慮して別途決定）
- ② 会場 未定（同上。）
- ③ 内容
  - イ) 基調講演：（題目未定）東京農業大学名誉教授・農博 後藤 逸男 先生  
【農水省・土づくりコンソーシアム顧問、全国土の会代表】
  - ロ) 会員による事例発表（詳細未定。基調講演の前段に開催予定。）

### (2) 現地研修会の実施

今年度は、年度内に2回以上の実施を予定しています。

COVID-19の影響が継続することを想定し、今年度は大学等からの外部講師は招聘しま  
せん。

- ① 初級者研修（年度内に1回：埼玉県内または山梨県内）  
現地調査の基礎を研修対象とし、「試坑掘り」「土壤断面調査（土性・硬度ほか）」  
を中心に行います。
- ② 営農者レベル研修（複数回：埼玉・千葉・茨城の何れか、または全て。）【後述の  
「データ駆動型土づくり推進事業」とリンクします。】

自ら営農する圃場における土壤調査や、土壤診断に係る相談を受けて比較的短時間で調査を  
行うことを念頭に置いた「土壤サンプリング」「簡易試坑または貫入式土壤硬度計による土壤  
断面調査（硬度、土性ほか）」を行います。

異なった圃場（作物、土壤など）を対象に、年度内に数回以上実施の予定です。

※作況の「良い圃場」と「芳しくない圃場」のペアで調査対象となります。

### (3) 「技術懇話会」設置の可能性の検討

令和元年度の事業報告でも一部述べた通り、「当会内で様々な土づくり関連情報を得て、担当理事等が当該現地へ赴き又はそれに準ずる方法で確認を行った上で検討、その成果を会員間で共有する」ことが可能であるかを検討します。

可能となれば、現地や別途用意の検討会場にてサロンの場（但し、「三密」にはしない）を設け会員間で情報を共有するか、もしくは今般「土壤医の会全国協議会」が発刊（2020年5月）した「土壤医の会通信」のような形式で不定期な情報共有を図るか等を担当理事が検討の上、令和3年度総会の中で「令和2年度事業報告」として報告します。

なお、担当理事が当該設置を困難と判断した場合も、「令和2年度事業報告」として報告します。

### (4) 「農」の機能発揮アドバイザー派遣事業への参加

首都圏土壤医の会は、「農」の機能発揮アドバイザー派遣事業の協力団体となっており、(財)都市農地センターより本事業は令和2年度も継続するとの連絡を受けております。令和2年度については「新しい生活様式」に沿った形でのアドバイス形式（具体的にはWeb会議を利用したオンラインセミナーの実施など）での実施を想定しており当会として実施の環境を整備する方向で検討します。

### (5) 「データ駆動型土づくり推進事業」への対応

今般、農林水産省の補助事業である「データ駆動型土づくり推進事業」の補助金交付候補者として、(一財)日本土壤協会を始めとする関係団体により組織された「協議会」が選定されました。詳細につきましては添付の「土壤医の会通信」を参照願いますが、当会「首都圏土壤医の会」も積極的に本事業へ協力していきたく、これを機会に「営農者レベルの現地研修会」を積極的に実施するだけでなく、当会会員（営農者）によるご自身の圃場を対象とした「土壤調査（但し、作況の「良い圃場」と「芳しくない圃場」のペアが調査対象）を広く実施いただく（土壤分析代は「協議会」負担）等、企画・呼びかけして参ります。

- ・なお、当該「事業」の現時点での対象県は、首都圏の中では「埼玉県」「千葉県」「茨城県」が該当しますが、R3年度以降、「山梨県」等にも広げていく方向です。

### (6) 簡易土壤分析機器に関する無料講習会

簡易土壤分析研究部会の活動は今年度は休会としましたが、当会の事業として「簡易土壤分析機器に関する無料講習会」を企画しWebセミナー形式で土壤分析機器メーカーの講習会を実施しその有効性とニーズの把握を行うことを計画します。

### 3. 土壤医検定試験受験者への対応

共に研鑽する仲間（首都圏土壤医の会会員）を増やし、会の認知度のアップを目的とします。

#### (1) 本会HP内に受験者向け情報サイトの設置

土壤医検定試験に受験学習に有用な情報を提供し、会の認知度の向上と受験者の会への加入促進をはかります。

#### (2) 土壤医検定試験対策講習会の実施

3級の講習会は、昨年度までと同様に埼玉県鴻巣市で講習会を行います。COVID-19の影響を考慮して、zoom等インターネットを利用した講習会の検討を行います。

2級の講習会は実施せず、問題演習（講座）を実施します。

(※) 【講習会】は、試験範囲をわかりやすく説明・講義を行うのに対し、【講座】は問題演習を解説します。

#### (3) 問題演習（講座）の実施

2級受験者で会員となった方に対して、会のHP上で問題演習を公開しこれに解説を加えます。またzoom等を利用し（土壤協会の土壤医検定研修会の）テキストを使用したインターネット（講座）の実施を検討します。

#### (4) 令和元年度土壤医検定試験準会場設置

COVID-19の影響を見ながら日本土壤協会との協議の上で、鴻巣会場など埼玉県での準会場の設置を行います。

### 4. 研究部会活動

研究部会は、テーマごとに研究・情報交換等を行うもので、正会員の申出にもとづき設立することが出来ます。

#### (1) 市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会

今年度は、昨年に続き「市民農園等小規模圃場」に出向き、土壤断面調査、pH、ECの簡易分析等の圃場調査を実施し、調査のノウハウを蓄積していきます。また、研究部会の活動をHP等を活用して紹介していきます。

「市民農園等小規模圃場の土作りマニュアル」の作成については、年度内の作成を目標とします。

#### (2) 土壤活用研究部会【令和2年度は休会】

令和元年度の事業報告で述べた通り本年度は「一旦休止（休会）」とし、担当理事による検討を行った上で、当年度内に首都圏土壤医の会会員からの再開ご要望のない場合、もしくは担当理事が再開の意義を見出せない場合は令和2年度を以て廃止とします。

### (3) 簡易土壌分析研究部会【令和2年度は休会】

令和元年度の事業報告で述べた通り本年度は「一旦休止（休会）」とし、担当理事による検討を行った上で、当年度内に首都圏土壌医の会会員からの再開ご要望のない場合、もしくは担当理事が再開の意義を見出せない場合は令和2年度を以て廃止とします。

### (4) 土壌医検定試験対策講習会研究部会【廃止】

試験対策講習会や受験サイトは土壌医の会の本事業として行うため、本研究部会は廃止とします。

## 5. その他

### (1) 土壌医の会の体制を含め首都圏土壌医の会の今後の在り方の検討

昨年の事業計画について、理事の力がおおよそ十分達成できたとは言えません。また、COVID-19の影響により、リモート会議の普及も進むことが予想され、新たな取り組み方法の可能性も出てきております。

首都圏土壌医の会は、設立後4年目にあたり、会員数は徐々に増加しております。しかし、検定試験の認知度が高まり、毎年一定数の検定受験者および登録者がある中で、会員数の割合は低いものとなっています。これは、彼らの土づくりへの興味や研鑽の意欲に対して、首都圏土壌医の会の活動の認知のための広報活動が十分でなかったことや、多様な研修機会、活動機会を十分提供できなかったことにあると考えられます。

このため、首都圏土壌医の会の活動の充実と会員拡大に向けて、土壌医の会の体制を含めて、首都圏土壌医の会の活動を見直していくため、「首都圏土壌医の会の今後のあり方検討委員会」を開催します。この委員会のメンバーは、理事および参加希望会員とします。また、会員は様々な活動域をお持ちなので、委員会より個別にアドバイスやアイデアを求めることも行います。

### (2) 土壌医の会全国協議会の助成制度の活用

全国協議会の公募があった段階で、助成制度の活用の可能性について検討します。

### (3) 行政等が行う研修会等の開催情報の提供

会員の研鑽等に資すると考えられる研修会等の情報を、メーリングリストを使って会員に提供します。

### (4) ホームページ等を活用した、首都圏土壌医の会の活動の発信

現地研修会の内容、研究部会の活動、会員関連情報等をホームページ、フェイスブック、メーリングリストを活用し、会員に周知するとともに、対外的に首都圏土壌医の会の活動を発信していきます。フェイスブックについては昨年度試行的に当会のページを作成しましたが既に90名のフォロワーがおり情報発信や会員勧誘の場として有効と考えております。また、新規会員申込についても当会のホームページからの申込が増えております。

# 4号議案

## 令和2年度首都圏土壤医の会予算（案）

### 1. 令和2（2020）年度の予算計画の考え方

令和2年度については令和元年度の活動実績と事業計画を鑑み以下の方針で予算を編成する。なお業計画遂行後に余剰が生じた場合は、本会収入に繰り入れる。

#### （1）収入の考え方

①活動費 6月30日時点の会員49名を基本に年度2000円／名とする

②研修会等参加費 2回の現地研修会について会員10名、非会員10名の参加があるものとして会員無償、非会員2000円の参加費を想定する。

#### （2）事業計画項目ごとの費用の考え方

①第4回定期総会はネットでの対応としたため会場費、備品等の費用は計上しない。

②第4回定期総会研修会は中止としたため費用計上は行わない。

③土づくり現地研修会 参加費の範囲内で対応する。

④土壤医検定対策講習会 参加費の範囲内で対応する。

⑤各研究部会の活動経費に関しては各々の研究部会内で支弁することとする。

⑥土壤医試験準会場設置をする場合には設置事業として収支が赤字にならないようにすることとし、本会としての補助については理事会での検討事項とする。（予算化しない）

#### （3）一般事務費 活動費の範囲内で対応する。

①印刷費 印刷機トナー、FAX印字インク、印刷用紙など

②通信費 ドメイン維持費、サーバーレンタル代、Web会議システム使用料など

③役員交通費 一人1回の理事会で1600円を想定、会議6回に加えて理事による研修会下見、講師打合せ等20000円

④会議費 レンタル会議室代として1回1200円を想定、会議6回

## 2. &lt;予算案&gt;

収入		支出	
活動費	98,000	第4回定期総会	印刷費 0
研修参加費	40,000	第4回定期総会研修会	会場費(備品含む) 0
			講師謝礼(交通費) 0
			小計 0
		土づくり現地研修会(2回)	会場費 8,000
			消耗備品費 4,000
			講師謝礼(交通費) 20,000
			小計 32,000
		土壌医検定対策講習会	0
		一般事務費	印刷費 4,000
			通信費 38,800
			役員交通費 56,000
			会議費 7,200
			小計 106,000
繰越金	332,848		
収入合計	470,848	支出合計	138,000
		差額(次年度繰越)	332,848

以 上